

やんばる国立公園

やんばる国立公園は、2016 年 9 月 15 日に設立された、日本に 35 ある国立公園の中で最も新しい国立公園の 1 つです。沖縄本島の北端にあり、21,022 ヘクタールを占めるこの公園は、辺戸岬近くの深い森林に覆われた山々、険しい崖、多孔質のカルスト地形、慶佐次川河口のマングローブ林を特徴としています。ここで見られるような亜熱帯林は、この緯度（北緯 27 度付近）では珍しいものです；やんばるはメキシコ北部、リビア砂漠、インド北西部などのより乾燥した地域と同緯度にあります。季節風や暖流・黒潮のおかげで、この地域は豊富な降水量に恵まれ、背の高いイタジイ（*Castanopsis sieboldii*）として知られるブロッコリーに似たシイの木や大きなシダ植物、非常に珍しい小型のランなど、多様な植物の生育を支えています。

やんばるには多様な動物種が生息していますが、その多くはアジア大陸や日本の本島から孤立してきた長い歴史によって固有種となっています。やんばるの面積は日本の総面積の 0.1% 未満であるにもかかわらず、この地域には日本の鳥類種の約半分とカエル種の 4 分の 1 が生息しています。ヤンバルクイナ（日本唯一の飛べない鳥）やノグチゲラなどの絶滅危惧種の一部は、個体数を回復するために現在保護対象となっています。

周辺の陸地と海の自然環境は、常にやんばるの村人たちにとって重要な資源の供給源でした。

たとえば、やんばるの森林から得られた薪、木炭、木材は歴史的に地元での使用と沖縄本島の他の地域との取引の両方に利用されてきました。やんばる地域は過度の利用の時期を経験しましたが、最近では地域住民による取り組みにより、より持続可能な方法で森林資源を利用するようになっていました。地元コミュニティは、野生生物の保護や侵入動植物の侵入防止などの活動に協力し続けています。

やんばる国立公園では、ツアーやトレッキング、キャニオニング、カヤック、動物観察などのアクティビティを通じて、この地域特有の自然環境や活気に満ちた文化を体験・体感することができます。